

戸二小メタバース美術館 「T2—MUSEUM」の 設立について

課題

① コロナ禍がもたらす鑑賞する学びの減少

コロナ禍により、戸田市児童生徒作品展を含めた様々な展覧会の開催が見送られており、学校においても、人と人が対面でかかわる接触型の図工美術教育は縮小され、表現すれども、相互に鑑賞する学びが減少している状況となっている。Afterコロナにおいても、このような状況が継続されている可能性もある。

戸二小メタバース美術館は、仮想空間をつかった非接触型のものであるので、展示や鑑賞における感染リスクはない。また、アバター子供学芸員を参加させることもできるので、仮想空間での対話をとおした鑑賞も可能となり、鑑賞をとおした学びの機会の増加が見込まれる。

② 図工美術教育の進化（深化） ・ 戸田市の発展

戸田市では、昭和から図工美術教育はさかんに行われ、「図工・美術の戸田市」と言われてきた。注目を集めているSTEAM教育でARTが重要なものとして位置づけられており、その最先端を戸田市が進んでいけるようにしたいと考えている。

コンセプト

『共創』 『参加』

戸二小メタバース美術館は、「共創」「参加」をコンセプトの中心として、子供が教員や産官学民の外部人材と共創し、表現、展示、鑑賞して学ぶ、世界発の参加型子供メタバース美術館を創造していくものである。

子供たちがつくったものを、子供たち自身が展示していくART空間・戸二小メタバース美術館「T2-MUSEUM」を仮想空間につくることで、子供たち自身が自分で作品を展示し、それを友人、教員、保護者等が共有できるようにし、子供の学びを発展・拡大していくようにし、子供の資質・能力の向上を図っていく。

鑑賞をとおした学びの機会を拡大することも考えられる。例えば、常設展や企画展、また、期間を限定の展覧会も開催することができる。さらには、子供学芸員として、作者本人がアバターで参加し、その世界に入ることにより、自分の作品を鑑賞しにきた方に説明することもでき、様々な交流の場をつくれるようにしたいと考えている。

戸二小メタバーズ美術館「T2-MUSEUM」概要

○どのような当たり前を問い直すか

- ・作品の展示はこれまで教員が行ってきた。教室の展示、校内の展示、市内作品展の展示などは、教員の負担ともなっている。ここを子供たちが自分自身で学びながらメタバーズでの展示（作品を画像にする、デジタルデータでつくるなど→T2-MUSEUMに自分で配置する→キャプションなども自分で設置）を行っていくことができるようにしていく。

○必要経費・・・メタバーズ空間の構築・利用や関係備品等に係る経費

○提案に当たっての留意事項要件について

- ①教科等横断的な学び「STEAM」に該当する「脱・正解主義」である。
- ②メタバーズについては知見がないので、産官学の協力も得ながら、進めていき、社会に開かれた教育課程の実現をする「脱・自前主義」である。
- ③創造していく部分が多分にある「脱・予定調和」である。
- ④教師主導ではなく、空間に自分（たち）の作品を自分（たち）で展示する「脱・教師主導」である。
- ⑤初の試みであるので、教師の経験、勘、気合いは通用しない「脱・3K」である。